

国際平和拠点ひろしま構想推進委員会の開催結果について

1 要旨・目的

国際平和拠点ひろしま構想の今後の進め方について協議を行うため、「国際平和拠点ひろしま構想推進委員会」を開催した。

2 現状・背景

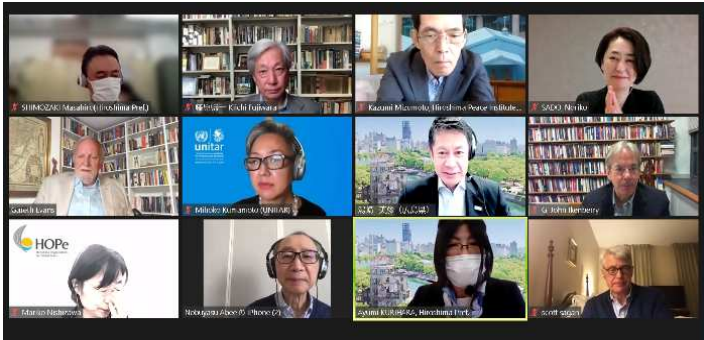
国際平和拠点ひろしま構想の行動計画の策定など、構想の推進に関する重要な事項について意見又は助言を求めることを目的として、平成24年に設置し、毎年開催している。

3 概要

(1) 実施主体
広島県

(2) 実施日
令和3年10月18日（月）

(3) 方法
オンライン



(4) 出席者

	名前	所属等
顧問	ギャレス・エバンス	元豪州外務大臣，オーストラリア国立大学学長
	ジョン・アイケンベリー	プリンストン大学教授
	スコット・セーガン	スタンフォード大学教授
委員	阿部 信泰	元国連事務次長（軍縮担当）
	佐渡 紀子	広島修道大学国際コミュニティ学部教授
	藤原 帰一	東京大学大学院法学政治学研究科教授
	水本 和実	広島市立大学広島平和研究所教授
パートナー機関	隈元 美穂子	国連訓練調査研究所（ユニタール） 持続可能な繁栄局長兼広島事務所所長

(5) 実施内容

- ア 報告・協議事項
 - 「国際平和拠点ひろしま構想」の進捗状況
 - 次期構想推進計画の策定について
 - 「国連における核兵器廃絶目標の合意」について 等
- イ 次第
 - 開会あいさつ，報告，協議

(6) 主な意見

【HOPe・広島役割】

- HOPeは、広島の経済団体や大学等で構成されており、広島のコミュニティが国内外に広がり、多様なコミュニティと強いネットワークが築かれることを期待する。
- 広島からの意見が、米国の安全保障政策における核体制の見直しにプレッシャーを与えることで、核の役割低減に消極的な日本政府を思いとどまらせる役割を期待したい。
- バイデン政権は、核兵器を重要視しない対外政策に転換させる重要な機会であるが、唯一の目的 (sole purpose) 宣言や先行不使用への明確な支持を実現できるかどうか、核リスクの低減や核兵器の非合法化に向けて、核兵器依存からの脱却を目指すなら、構想推進委員会や広島県からの声が必要である。

【次世代人材育成】

- 広島を訪問し、人道的な影響を実際に見ることは、非常に大きなインパクトを持つ経験である。若手の研究者や将来の政策決定者が広島に来る会議などを開催してはどうか。
- 次世代人材育成はターゲットを明確にし、特に核兵器国の次世代リーダーの育成が重要。規模の拡大のためには、デジタル技術の活用やハイブリッド研修が重要。
- 被爆の実相を伝えるにはどのように描写するかが重要である。受け手としての若者のアイデアや意見を反映させながら、VRやアニメーションなど多様なツールと若者の状況や年齢に合う方法を使うことが必要である。
- 核兵器禁止条約の批准国を増やしていく必要がある、締約国会議や関連した会議を広島でやってほしい。

【国連における核兵器廃絶合意】

- 朝鮮半島の問題は、北朝鮮とどう協力していくか、その最終的な目標から議論を始める必要がある。
- パンデミックや気候変動の加速が核廃絶や核軍備への関心を集めることを難しくしている面があるが、一方、コロナと気候変動が議論を支配している状況はチャンスでもある。核兵器の問題も含めて世界を破壊しかねないこれらの3つの問題を同列において議論すべきである。
- 核軍縮・核廃絶とつながりが評価できるメガトレンドに関して重要な働きや貢献をしている組織をパートナーとして増やしていく必要がある。
- 一瞬で人類を破滅に導く核兵器の脅威は非常に大きいものがあり、他の国際的な問題の中の一つに埋没しないようにする必要がある。